

気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業を定期的に紹介します。

## 気仙沼大島大橋が開通しました（気仙沼土木事務所）

宮城県が「復興のシンボル」として整備を進めてまいりました「気仙沼大島大橋」については、平成31年4月7日（日）に供用を開始しました。

当日の午前11時から磯草地区（大島側）で開通式典を行い、午後3時から気仙沼大島大橋の供用を開始しました。

大島架橋事業については、大島地区の住民が東日本大震災時に長時間にわたり孤立を余儀なくされるなど、その必要性が再認識されたことから、平成23年度に着手しました。

今回の開通により、本土と大島が陸路でつながり、大島地区住民の日常生活における利便性の向上や救急医療活動への支援、観光交流や産業の活性化などが大いに期待されます。



開通式典（テープカット・くす玉開披）



供用開始（大島側より）

## （コラム）気仙沼大島のみどころ（気仙沼地方振興事務所地方振興部）

本土から気仙沼大島へは、長らくフェリーによる定期航路で結ばれていましたが、気仙沼大島大橋の開通により、自動車等で直接乗り入れることができるようになりました。

島内で最も標高の高い「亀山」は、島を一望できるほか、対岸の内湾地区も見渡すことができるビュースポットです。夜には星空ウォッチングもできると評判です。

また、夏季には小田の浜海水浴場が開設され、シャワールームが完備されたビーチハウスで快適に過ごせます。

さらに、島内は「みちのく潮風トレイル」のコースにもなっており、季節ごとに咲く花々や景色を楽しみながらの散策もおすすめです。



亀山からの眺望



小田の浜海水浴場



春先には椿も咲く

## 復旧農地のソラマメが初収穫です (気仙沼地方振興事務所農業振興部)

気仙沼市唐桑町の大沢地区では、「唐桑大沢営農組合」が昨年10月に復旧農地に播種したソラマメが順調に生育しており、6月上旬に初めての収穫を迎えます。

営農組合の方々にとってソラマメは初めて作る野菜で、しかも復旧農地は土が固いため、栽培には大変苦労しましたが、1年目にしてはますますの出来になりました。また、ソラマメの収穫期間は通常半月ほどですが、大沢では秋播きと春播きの2つの作型で栽培しているので、およそ6月いっぱいソラマメが収穫できる見込みです。

気仙沼市内にあるJA南三陸の直売所「菜果好」では、大沢産のソラマメが販売されるほか「ソラマメ祭り」も行われる予定なので、ぜひ新鮮な旬のソラマメを食べてみてください。



栽培指導の様子



大きく育ったソラマメ

## 第24回全国青年・女性漁業者交流大会について

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部)

平成31年2月28日に東京都内で開催された「第24回全国青年・女性漁業者交流大会」において宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会が「資源管理・資源増殖部門」で農林水産大臣賞を受賞しました。

当部会会長の後藤清広氏が「持続可能で高品質なマガキの養殖生産～マガキの適正可能養殖を目指して!!」と題して発表し、品質の改善や環境負荷の低減のためカキの養殖施設台数を3分の1まで減らしたことにより、大幅な生産期間の短縮が図られたほか経費の削減、労働時間の短縮化などの成果が高く評価されました。また、国内初となるカキの国際養殖認証(ASC)を取得するなど当部会の取組は各方面で高く評価されています。



発表を行う後藤氏



受賞式の様子